

グローバル企業が注目する 財務管理ツール — デファクト・スタンダードSWIFTNet

吉見 亨

スイフトジャパン バイス・プレジデント

グローバルに事業を展開している企業であれば、連結決算、財務・管理会計といったシステムをすでに確立しているところが多い。しかしながら、財務管理システムと決済・銀行システムとを標準的な手法で統合した、本格的なシステムを確立している企業となると、欧米企業を含めてもそう多くはない。

だがERP・TMS(注一)といったシステムを駆使してグループ全体の流動性を管理するだけでなく、決済・銀行システムとの接続を標準化させることがすでに現実のものとなっている。これから紹介するように、標準化・シングルウィンドウのアプローチを重視することで、SWIFTNetを企業が直接利用することがその手法である。

具体的に、高い投資効率をあげたGE社、ソフトウェア・ジャイアントのマイクロソフト、さらに本誌が出版されるころには公になっていると思われる某日系大企業のケースを紹介することは、企業が本格的なグローバル財務管理体制を構築するうえで大いに参考になるだろう。

各社のケースで共通して言えることは、内部統制を強く求められる昨今の動きに合わせて、オペレーション・リスクを管理する方法としてSWIFTNetを選択したということであり、具体的には以下の要件に基

づいている。

- 複数の銀行取引を一つの統一的手段で管理する。
- 標準(スタンダード・フォーマット)に重点を置き、STP化(注二)を達成する。
- グループ会社各社の口座推移を集中して管理できる体制を達成する。

- 市場取引を集中、各地域トレジャリーの動向を本部で集中管理できる体制を確立する。

- 単一のシステムでありながら、同時に拡張性・将来性を確保する。

SWIFTNetでは、長年にわたって確立された標準フォーマットとネットワークの高いAvailability(九九・九九%以上の可用性)、厳格な資格審査、クロスなネットワークでありながらERPネットワークを基盤とした柔軟な利用形態、利用規模に合わせた拡張性、強度なセキュリティを提供しており、前述の要件を充足していると判断されている。

GE、四〇〇%のROOを達成

(二〇〇五年同社発表より)

GE社はSWIFTNetを採用する事業法人としてSWIFTに加盟(注三)する(以前はグループ会社全体で世界の約二〇〇行に約二万口座の取引を持

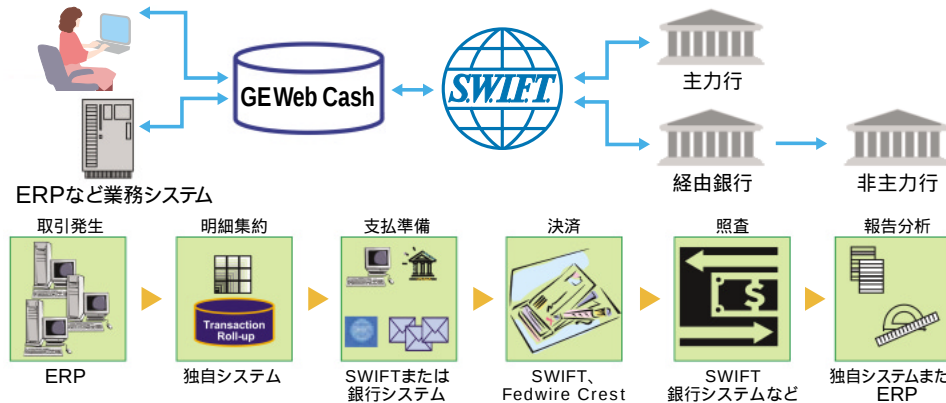
ち、非常に多くの各銀行から提供される異なったシステムを利用していた)接続方法・画面・フォーマット・バージョン・セキュリティ対応はそれぞれ異なっていた。そのため、効率性・将来性・拡張性・安全性の多面的な分析から、SWIFTNetを採用するという結論に至った。

特に効率性と標準フォーマットの観点では、高コスト分野として問題となっていたEDのフォーマットへのマッピングとその保守、厳格な基準の災害対策と演習、高額の至急グループ内付け替え決済結果の照査などが、標準的な手法で解決できると判断した。さらに透明性の高い決済インフラをグループ内に導入することによって、サーベインズ・オクスレー法への対応にも質的な向上が見られた。

独立したコンサルティング会社の調査結果では、通信障害によるトラブルが年五〇回からゼロに、三種類の別々の銀行システムが一つに、財務部門の人員を増加することなく効率性が三〇%増加するなど、数多くの目ざましい効果が確認されている。加えてフォーマットの保守、照査などの保守人員費用の削減効果、アイドルマネーの削減による運転資金の効率化などにより、非常に大きな効果が出ていると評価している。総合的評価では、

● よりスムーズなデータの流れと標準化

標準的なシステムに統合することにより、SWIFTNetを通じてGEの財務部門では品質の向上、透明性・可用性・拡張性を確保した。



拡張性のあるシステム

よりリアルタイムに近づくシステム
 ● 統一したシステムにより、USにおける資金ポジションはより正確・迅速に把握できるようになった。
 ● 一つのシステムによってこれまで時間にとわれていた取引の管理がシンプルかつタイムリーになった。
 ● 日中ODが削減できた。

拡張性と処理能力

GEの財務部門は拡張性のあるシステムを獲得した。SWIFTNetによりGEは取引量の増加、取引先の増加、新規投資(M&A)に対しても自信を持って標準的な手続きで対応できるようになった。

SWIFTNetの利用によりGEの所要運転資金の半分の調達コストの〇・一％を引き下げるのに相当する効果があるとされ、SWIFTNet対応に要する初期投資+年間費用の投資効果は四〇〇％と計算された。

マイクロソフト、SWIFTNetの利用を決定。世界の「二〇〇銀行口座の取引を統括管理

マイクロソフトの発表によると、本年一二月より企業統治の観点、業務効率向上の観点からSWIFTNetに接続開始することを決定した。これは、システム的には財務部門で利用しているSAP R/3のCUMEN(central corporate finance management module)とSWIFTNetをこのことにより、財務取引の標準化を図るものである。これらのプロジェクトを通じてSAP C/PMの活用により決済管理を集中的に実施する体制を作り上げる計画である。

同社の製品である、Microsoft BizTalk®や、Microsoft Office InfoPath®、SharePoint®を活用し、

SWIFTNetとシームレスな結合を実現することも計画している。

同社とSWIFTは戦略的なパートナーとして特にXML標準の有効活用を通じてソリューションの普及に努めており、今後の成果が注目される。

本邦企業もSWIFT利用がスタート

現時点では仮にA社とするが、A社では前述GEと比べて遜色ない規模でSWIFTへの加盟とSWIFTNetの利用を決定し、現在準備を進めている。

ERPを導入後、グローバルでの財務管理を強化するため、TMSの導入と同時にSWIFTNetの利用を図っている。前述のGEやBard、France Telecom、Louis Vuitton、Cargillなどと同様に、インター・パーティーとしてのSWIFT参加およびMAICUGへの参加を行うことにより、グループ会社各社の銀行取引情報の集約、市場取引の集中管理、グループ内外の資金決済の集中化を図る計画である。SWIFTNetの利用が標準化・効率化・内部統制拡張性の観点から有益であると判断した結果である。

当社はSWIFTNetを利用することにより個別資金決済を行うFIDNと呼ばれる標準フォーマットによる指示に加え、汎用的ファイル転送のシステムであるFileAct、ファイル管理システムを併用することによりERP/TMSとのシームレスな統合を目指している。

最後に

前述のケース以外にも、フランスの鉄鋼大手であるArcelorのケースではプロジェクトのROICが六〇〇％と算定されるなど、SWIFTNet利用の効果が実証

されるケースが増加している。世界全体ではSWIFTをなんらかの形で利用する企業は二〇〇五年上半期で六六に上っており、これは四年前の六倍となっている。効率性・拡張性と内部統制の強化という必ずしも同一のベクトルで図れない要件を同時に達成することが可能なSWIFTNetは、事業法人の財務管理に大きなメリットをもたらすものと考えられる。

なおSWIFTでは、インター・パーティー・パーティでないMAICUGの参加者という既存の参加形態を拡張する検討を世界の代表的な銀行の有識者グループにより行っており、二〇〇六年六月には年次総会の承認を経て新しい参加モデルを提唱することが計画されている。

(注一) Treasury Management Systemの略。キャッシュフローや外貨ポジションのプロを統合的に管理し、市場データと照らし合わせて主に市場取引の意思決定サポートをするほか、締結した取引やポジションに対する価格変動リスクや信用リスクを評価するリスク管理システムのデータを提供する。製品によってはリスク管理システムを包含したものも存在する。通常ERPのシステムと連動させることにより、買掛・売掛金などの企業の業務活動からキャッシュフローを反映させるほか、投資・調達など全体のキャッシュフローを多通貨にわたり統合的に管理するシステム。

(注二) Straight Through Processingの略。人手を介さず(決済)取引をend-to-endで自動化により自動化することにより効率を高めること。

(注三) SWIFTはもともと金融機関のためのネットワーク・メッセージングサービスであり、各種の参加基準が設けられている。事業法人が直接利用するためには、インター・パーティー・パーティとして参加するか、メンバーが管理するCUMEN/MAICUG/クロス・メンバーグループの参加者として利用するといった方法が設けられている。GEのケースもあるように、多国籍企業の財務集中管理システムを構築した場合、および、両方の基準で参加するSWIFTNetを利用する傾向が強い。お問い合わせ先はSWIFT Japan 〇三・五二二二・三・七四〇九 toru.yoshimi@swift.com または http://www.swift.com/index_cfm?item_id=57384 又は世界中の各銀行のMAICUGに問い合わせる連絡先を公開している。